

平成 23 年 5 月 30 日現在

研究種目：基盤研究 B（海外学術調査）

研究期間：2008～2011

課題番号：20401001

研究課題名（和文）国立西洋美術館を中心としたル・コルビュジエ作品の文化遺産保存活用に関する調査研究

研究課題名（英文）Research on conservation and practical use of cultural heritage on the works of Le Corbusier focused on the National Museum of Western Art

研究代表者

山名 善之（YAMANA YOSHIYUKI）

東京理科大学・工学部第二部・准教授

研究者番号：70349843

研究代表者の専門分野：近代建築保存技術

科研費の分科・細目：文化財科学

キーワード：文化財科学、文化財活用調査、文化財資料調査、アーカイブ

1. 研究計画の概要

本研究においては以下の 3 つの調査指針に基づき、「国立西洋美術館本館」を現用し続ける文化財のプロトタイプとして捉え、この資産を文化遺産として保存活用することを念頭に、ル・コルビュジエ設計による他事例の海外調査と設計史料収集調査を行う。「文化財としての保存」に配慮しつつ「建築本来の機能である美術館としての展示空間」をどう行うかという国立西洋美術館の今後の課題の基礎指針も策定する。この調査を踏まえ、現用し続けるモダン・ムーブメント建築の文化遺産としての保存活用のための体系的な理論を構築することを目的とする。

調査指針

①文化財保存及び修復技術に関する研究

②史料収集とその整理及びアーカイブ化

③文化財活用（展示公開・教育普及）に関する調査

調査対象は、世界遺産候補としてフランス文化省とル・コルビュジエ財団が提出準備を行っている（2007 年時点）「ル・コルビュジエ設計による建築及び都市計画」のリスト中のフランス、アルゼンチン、ベルギー、ドイツ、インド、スイスの 7 カ国に存在する、ル・コルビュジエの設計した建築、都市計画の 23 作品である。

2. 研究の進捗状況

平成 20 年度は、国立西洋美術館と同じくル・コルビュジエによるプロトタイプ「無限発展美術館」のインドでの実現作であるチャンディガール、アムダバードの美術館の現地調査を行うと共に、設計過程及び施工過程の資料収集をル・コルビュジエの共同建築家

主宰の研究所にて行った。また、パリのル・コルビュジエ財団において国立西洋美術館の設計資料調査を行い、国立西洋美術館の設計過程の全体像を把握した。

国立西洋美術館開館 50 周年にあたる平成 21 年度は、研究共同者である国立西洋美術館の教育普及室長寺島を中心に、「ル・コルビュジエと国立西洋美術館」展を開催し、収集資料の公開をとおして、国立西洋美術館本館の文化財としての価値を広く社会に伝えた。

この展覧会を機に行われた研究の第一段階の纏めおよび討議を踏まえ、第二段階以降の調査指針の見直しを行った。研究代表者である山名は各調査対象の改修、修復記録等を中心に資料収集を行い、共同研究者である川口（国立西洋美術館情報資料室主任研究員）は、文化財の修復と活用の両面からの資料ストック、およびそのアーカイブ構築のための作業を山名研究室と共に行った。共同研究者である寺島は各対象文化財が教育装置としてどのように活用されているかの資料収集と現地調査を行った。

平成 22 年度は、国立西洋美術館所蔵の図面資料を整理してアーカイブを構築し、西洋美術館の竣工後の改修履歴について詳細に明らかにした。共同研究者を中心に、展覧会「リートフェルトの世界」の視察、及びユトレヒト博物館の教育担当者を訪ね展覧会関連プログラムと世界遺産に認定された「シュレーダー・ハウス」の教育プログラムの聞き取り調査を行った。また、カナダ建築センター（CCA）、オンタリオ美術館（トロント）のアーカイブ部門を訪問し、建築関係のアーカイブズ資料に関する整理と公開方法、収蔵庫における資料の保管状況等を視察した。

3. 現在までの達成度[RK1]

②おおむね順調に進展している。
当初の研究計画と照らし合わせおおむね順調に進展しているといえる。研究プロジェクトと同時に進展した、当該研究対象のル・コルビュジェの世界遺産推薦の内容が変遷したところがその主な理由である。世界遺産の構成資産のシリアルノミネーションによる問題。二十世紀建築の文化財としての問題が研究プロジェクトを進めるにあたって、大きくその概念が変遷してきた。期間中、東京において DOCOMOMO の技術専門国際委員会を、山名を副委員長として開催したこと。そしてメキシコで開催されたドコモモ国際大会において、山名が学術委員としてリビング・ヘリテッジをテーマとして開催し意見交換を行ったことは、本研究プロジェクトを進めるうえで非常に役に立ち、同時に、意見交換の場で本研究が有用であった。

4. 今後の研究の推進方策

現在、20 世紀建築の文化財としての位置づけ、オーセンティシティを保持し、かつそれを活用することに関して、イコモス 20 世紀委員会、ドコモモにおいて様々な議論が繰り広げられている。2011 年 6 月 13 日～16 日まで、イコモス 20 世紀委員会が開催され研究代表者の山名が参加し予定である。また、6 月下旬に世界遺産委員会において、ル・コルビュジェの資産に関して、再度議論がある予定である。

今後の研究としては、2 つの大きな方向性がある。

- ① 各国で文化財の周辺環境保護を中心とした都市計画がどのように進んでいるかということに関する実地調査。
- ② 二十世紀の建築文化財としてどのようにオーセンティシティを位置づけ、使いながら保存する、所謂、リビング・ヘリテッジという考え方に学術的方法論を構築するか。

以上の 2 点を中心に最終年度の調査を行い、同時に今後の研究プロジェクトにつなげたいと考えている。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

①川口雅子、美術館図書室と一過性資料、アート・ドキュメンテーション通信、vol. 85、p. 14、2010 年

〔学会発表〕(計 1 件)

①福田京、山名善之ほか、国立西洋美術館における「四角な螺旋型美術館」の現実化に関する研究:アトリエ・ル・コルビュジェと日本人建築家の協同による設計変遷を通して、

日本建築学会大会、2010 年、富山

②飯田寿一、山名善之ほか、インドにおける「無限成長美術館」構想の現実化と展開に関する研究:アーメダバード美術館からチャンディガール美術館へのプロトタイプの適応の流れを通して、日本建築学会大会、2010 年、富山

③三代香織、山名善之ほか、ペサック集合住宅における ZPPAUP 法による色彩改修指針とその効果に関する研究:現地実測調査による現状との比較を通して、日本建築学会大会、2010 年、富山

④Yoshiyuki Yamana, Concrete Problems of the Le Corbusier Museum in Japan, 10th International Docomomo Technology Seminar, 2009, Poland

⑤福田京、山名善之ほか、国立西洋美術館の照明ギャラリーにおける採光方法に着目した設計変遷に関する考察:設計図面と往復書簡をとおして、日本建築学会大会、2009 年、宮城

〔図書〕(計 3 件)

①山名善之、戸田穰(訳)、マルセイユのユニテ・ダビタシオン、筑摩書房、2000

②寺島洋子編、開館 50 周年記念 ル・コルビュジェと国立西洋美術館(展覧会カタログ)、国立西洋美術館/(財)西洋美術振興財団、2009 年

③山名善之、桑田光平(訳)、ムンダネウム、筑摩書房、2009 年